



LIVエンジニアリング株式会社

2017年度環境活動レポート

(対象期間: 2017年6月～2018年5月)



作成日: 2018年7月10日



環境方針

<環境理念>

近年、地球の温暖やボーダーレスの大気汚染等の問題が顕著になっており、美しい地球と安全で住みやすい地域環境を次世代に残すため、本業である電気設備工事業の設計・施工を通じて、二酸化炭素と廃棄物排出量の削減及び資源の有効活用に全社員・協力業者一丸となり、積極的に取り組みます。

[環境方針]

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 事業所及び建設現場における電力と化石燃料の使用量を削減し、二酸化炭素排出量を削減します。
3. 事業所及び建設現場において、一般及び産業廃棄物の排出を抑制すると共に分別と再生利用を推進します。
4. 事業所及び建設現場における水使用量を削減します。
5. 事務用品のグリーン購入と資材・原材料のグリーン調達に努めます。
6. 電気設備工事の設計、施工にあたり省エネ照明器具をはじめとする省エネ機器の使用を提案し、事業活動に伴う環境改善に努めます。
7. 地域での環境保全活動に積極的に参加します。

制定日：2015年7月10日

代表取締役社長 楠本剛志

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

LiVエンジニアリング株式会社
代表取締役社長 橋本 剛志

(2) 所在地

本社 〒664-0007 兵庫県伊丹市北野6丁目7番地13(登記上)
事務所 〒664-0022 兵庫県伊丹市中野東3丁目130番
大阪オフィス 〒541-0046 大阪府大阪市中央区平野町2丁目6番1号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 工事統括部長 山本 拓一 ☎072-785-9114
担当者 業務部 滝本 義秀 ☎072-785-9114

(4) 事業内容

電気設備工事、電気通信工事、空調設備工事、電信電話架設工事、
防災・防犯設備工事、管工事の設計及び施工

(5) 事業の規模

売上高(2017年度) 535百万円
主要工事件数 15件

	本社	事務所	大阪オフィス	合計
従業員	0名	17名	0名	17名
敷地面積	295m ²	231m ²	58m ²	584m ²

2018年5月31日現在

(6) 事業年度

6月～5月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: LiVエンジニアリング株式会社
対象事業所: 事務所
対象外事業所: 大阪オフィス(認証・登録予定年度:2021年度)
活動: 電気設備工事、電気通信工事、空調設備工事、電信電話架設工事、
防災・防犯設備工事、管工事の設計及び施工

□主な環境負荷の実績

全社

項目	単位	2015年	2016年	2017年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	18,965	22,785	21,348
廃棄物排出量	kg	688	1,328	3,616
一般廃棄物量排出	kg	688	488	346
産業廃棄物排出量	kg	0	840	3,270
総排水量	m ³	73	68	61

(注)購入電力の二酸化炭素排出係数:0.522kg-CO₂/kWh
(関西電力の2013年度実排出係数)

事務所

項目	単位	2015年	2016年	2017年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	13,609	12,825	11,395
廃棄物排出量	kg	688	488	346
一般廃棄物量排出	kg	688	488	346
産業廃棄物排出量	kg	0	-	-
総排水量	m ³	73	68	61

建設現場

項目	単位	2015年	2016年	2017年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	5,356	9,961	9,953
廃棄物排出量	kg	0	840	3,270
一般廃棄物量排出	kg	0	-	-
産業廃棄物排出量	kg	0	840	3,270
総排水量	m ³	0	-	-

※ 化学物質の保管管理していない為、環境方針から削除した。

□環境目標・実績

※ 化学物質の保管管理していない為、環境方針から削除した

項目		年度	基準値	2017年		2018年	2019年
			(2016年)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減 CO2換算係数	kg-CO2		4,287	4,244	4,926	4,883	4,840
	基準年比	(2016年)		99%	115%	114%	113%
自動車燃料消費率の向上	kg-CO2		18,499	-	16,422	-	-
	燃費(km)		-	10.29	11.25	11.35	11.46
	基準年比(kg-CO2)	(2016年)		-	89%	-	-
	基準年比(燃費)	(2016年)		100%	109%	110%	111%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2		22,785	-	21,348	-	-
一般廃棄物の削減	kg		488	483	346	342	337
	基準年比	(2016年)		99%	71%	70%	69%
産業廃棄物の削減	kg		840	832	3,270	1%	2%
	基準年比	(2016年)		99%	389%	-	-
水道水の削減	m ³		68	67	61	60	59
	基準年比	(2016年)		99%	90%	89%	88%
グリーン購入	%		60	72	86	56%	57%
	基準年比	(2016年)		120%	143%	-	-
環境配慮設計・施工の提案	件		0	1	1	1	1
				100%	100%	100%	100%

注) 目標達成率(%) = 実績 / 目標 × 100とし、中期目標の削減率は2016年度目標を基準とした。

注) 環境配慮設計・施工の提案については、提案できる案件がない場合、座談会、意見会の開催で達成とした。

注) 自動車燃料消費率の向上の基準年比(kg-CO2)の目標欄については、達成目標を燃費とした為、実績のみ基準年度から算出し、記載する。

事務所

項目		年度	基準値	2017年		2018年	2019年
			(2016年)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減 CO2換算係数	kg-CO2		4,287	4,244	4,926	4,883	4,840
	基準年比	(2016年)		99%	115%	114%	113%
自動車燃料消費率の向上	kg-CO2		8,538	-	6,470	-	-
	燃費(km)		-	8.30	8.48	8.56	8.64
	基準年比(kg-CO2)	(2016年)		-	76%	-	-
	基準年比(燃費)	(2016年)		100%	102%	103%	104%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2		12,825	-	11,395	-	-
一般廃棄物の削減	kg		488	483	346	342	337
	基準年比	(2016年)		99%	71%	70%	69%
水道水の削減	m ³		68	67	61	60	59
	基準年比	(2016年)		99%	90%	89%	88%
グリーン購入	%		60	72	86	56%	57%
	基準年比	(2016年)		120%	143%	-	-
環境配慮設計・施工の提案	件		-	1	1	1	1
				100%	100%	100%	100%

建設現場

項目		年度	基準値 (2016年)	2017年		2018年	2019年
			(基準度)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減 CO2換算係数	kg-CO2						
	基準年比						
自動車燃料消費率の向上	kg-CO2	9,961	-	9,953	-	-	
	燃費(km)	-	12.00	13.07	13.19	13.31	
	基準年比(kg-CO2)	(2016年)	-	99%	-	-	
	基準年比(燃費)		100%	109%	110%	111%	
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	9,961	-	9,953	-	-	
産業廃棄物の削減	kg	840	832	3,270	1%	2%	
	基準年比	(2016年)	99%	389%	-	-	

(注)主に下請のため、電力、水は元請から支給される

(注)自動車燃料消費率の向上の基準年比(kg-CO2)の目標欄については、達成目標を燃費とした為、実績のみ基準年度から算出し、記載する。

注記

1. 化学物質は使用及び保管が無い為、環境方針・環境目標を策定しておりません。
2. その他の環境目標値は、2016年度の実績値を基準に策定しております。
3. 自動車燃料消費率の向上について、目標数値の対象を燃費にしたため、kg-CO2の目標欄は、「-」としております。
4. グリーン購入について、2018年度より、購入率を数値目標に変更致しますので、2018年度以降は、購入率で記載しております。
5. 産業廃棄物の削減について、2018年度より、リサイクル率を数値目標に変更致しますので、2018年度以降は、リサイクル率で記載しております。

□環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

事務所

○できた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	継続/変更	評価と次年度の取り組み内容
電力による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	×	■上方修正 □下方修正 □基準見直し	
・残業を減らす(作業の効率化)	△	継続	1回/月ノ残業デーは実施したが、市内の公共工事を受注した件もあり、その他の日の残業が増加傾向にあった。2016年度は、事務所も基本的には2階のみの使用だったが、今年度は、市内の公共工事受注の為、事務所1階で作業する従業員が増え、目標を達成することができなかった。 次年度は、外出時のPCスリープ等の使用電力削減とノ残業デーを週1回に増やし、具体的な残業削減の提案と目標設定数値の見直しが必要になる。
・月1回ノ残業デーを設けて時間短縮による節電を図る	○	変更	
自動車燃料消費率の向上			
数値目標	○	■上方修正 □下方修正 □基準見直し	
・エアコンの適正使用をする	○	変更	目標達成手段が有効に作用し、目標を達成した。 次年度は、共用自転車の導入し、近場移動の社用車の利用頻度を減らし、エコドライブについて再周知をし、更なる目標達成を目指す。
・遠方移動時は、予め最短ルート进行调查 走行距離を抑える	○	変更	
一般廃棄物の削減			
数値目標	○	■上方修正 □下方修正 □基準見直し	
・手拭きタオルの活用により、 ハンドペーパーの使用削減する	○	変更	総排出量について約29%の削減ができ、目標達成できた。次年度は、過去ファイリング書類のデータ化とファイルの再使用等、再使用できる物を利用し、一般廃棄物の削減に努める。
水道水の削減			
数値目標	○	■上方修正 □下方修正 □基準見直し	
・水道使用時のこまめな蛇口閉閉操作 による節水	○	変更	目標達成手段が有効に作用し、目標を達成した。 次年度は洗濯機利用時の適用水量の徹底し、更なる目標達成を目指す。
事務用品の環境配慮			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
・エコマーク商品の計画的な購入	○	変更	目標達成手段が有効に作用し、目標を達成した。 次年度は、購入数からの率で目標を立てる。 また、よく購入するエコ商品リストを作成し、役立て、更なる事務用品の環境配慮に努める。
環境に配慮した設計・施工の提案			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■継続	
・元請時にLED化等省エネ機器の使用を、見積提出時 提案することで実績とする提案することで実績とする	×	継続	取組期間中に元請工事はあったが、施工の提案をできる案件がなかったの で、座談会、意見会を開催することで実績とした。 次年度も継続し、施工の提案ができる案件があれば、座談会、意見会等 話し合った内容を活かすようにする。
・環境に配慮した施工について、アンケートを取る	○	継続	
化学物質の適正管理			
数値目標		□上方修正 □下方修正 □基準見直し	
※ 化学物質の保管管理していない為、 環境方針から削除した			
事業所周辺の清掃			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■継続	
・月一度は、範囲を広げた周辺の清掃を	○	継続	目標達成手段通りの実践により目標を達成した。 次年度も継続的に取り組み、市や県の清掃活動等 も積極的に参加し地域に貢献する。

建設現場

○できた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	継続/変更	評価と次年度の取り組み内容
自動車燃料消費率の向上			
数値目標	○	■上方修正 □下方修正 □基準見直し	
・駐停車中のエンジン停止を励行	○	変更	目標達成手段が有効に作用し、目標を達成した。次年度は、共用自転車の導入し、近場移動の社用車の利用頻度を減らし、エコドライブについて再周知をし、更なる目標達成を目指す。
・エアコンの適正使用をする	○	変更	
・車載荷物を軽減する	○	変更	
・遠方移動時は、予め最短ルートを調査 走行距離を抑える	○	変更	
産業廃棄物の削減			
数値目標	×	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
・分別の徹底	△	継続	基準年度と今年度とでは、受注した工事の規模が違う為、数値目標を達成することができなかった。次年度は、分別の徹底とケーブル等は必要最低限の長さのみ使用するなど、産業廃棄物の削減に努める。また、目標の基準をリサイクル率に見直す。

(注)主に下請のため、電力、水は元請から支給される

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)	判定
廃棄物処理法	各種工事から排出される木くず、混合廃棄物、金属くず、アスコン	遵守
建設リサイクル法	解体工事から排出される木くず	遵守
騒音・振動規制法	工事で使用する空圧機、バックホウ	遵守
NO _x ・PM法	工事で使用する貨物車、クレーン車、ミキサー車	遵守
オフロード法	工事で使用する大型及び小型特殊自動車、ダンプトラック	遵守
フロン排出抑制法	業務用エアコン	遵守
下水道法	公共下水道への接続管	遵守
グリーン調達基準	自治体、元請のグリーン調達基準	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

また、訴訟もありません。

□代表者による全体の評価と見直し

当社もEA21環境活動を始め、早3年が経過し、環境事務局社員を筆頭に社長並びに全従業員が環境配慮に強い意志を持ち続ける事ができるようになってきている。

環境活動結果の良否だけではなく、結果後からのPDCAをしっかりと出来ているか否かが、会社経営であれば、収益の増減、従業員自身であれば成長度合いに大きく関わってくるので、その重要性を全社員に周知・徹底させている。

月1度の社内会議に於いて、環境活動計画書を基に、目標と結果を社員に報告し、事務社員、現場社員、様々な目線から、活動や考えについて意見交換を行い、全社員が活動の把握と環境配慮に強い意志を持てるように努めている。環境活動を通じて、社員同士のコミュニケーションの場も増えた。

業務上、従業員の増減、現場の増減、事務所利用者の増減などにより、目標設定数値に影響する、目標があるので、次年度について、影響のある目標は、状況により、現在の環境理念、環境方針を通した、目標見直しを行い、会社にあった環境活動計画を構築し、更なる環境活動を行っていけるようにする。

環境活動の紹介

◆月次会議

2018年4月より、
社員全員がエコアクション
の活動を把握していける
ように、月次会議を開催



◆地域清掃活動風景①

毎月1回は、
出勤時間前に集合し、
会社周辺の範囲を広げた
清掃活動を行う



◆地域清掃活動風景②

兵庫県内の
一斉奉仕清掃への参加し、
エコクリーン活動により、
地域に貢献

